

基本的な考え

部会の使命

市民生活をデザインする(市民が何をすればよいのか、市民生活をどのようにしていくのかという辺りを考える)部会

基本スタンス

自由に議論しながら部会の行き先を決める

共通の哲学を

文化・スポーツ、市民生活などをばらばらに語るのではなく、間をつなぐ哲学を検討

うらおい部会全体としての上位政策が存在するはず

議論の視点

市民生活を豊かにするためにどうデザインするか

情報共有しブレイクスルー

困ったときも含めて考える

分野の隙間をどうつなげるか

人をつなげる視点で議論

進め方

柔軟で開かれた議論

前半は哲学を語っていくという形で進め、後半で各論をpushする

各政策を切り口にするが市民生活全体を念頭に議論

潤わせたいものについてブレスト

わかりやすい言葉で

公募委員の力を発揮

共に汗をかく部会に

傍聴者の意見も聞く開かれた会議

行政ヘリクエスト

行政職員を仲間だと思って話

行政としては市民に対してどうしたらいい、どうすればよいというポジションを常に考えながらやっていく

各区の色々な課題を部会の素材に

共通のお題で

基本計画の共通項目として子どもたちに働きかける

他との交流

自由参加でも良いので他部会との議論をうまくできないか

市の策定推進本部を作られているので、そこと議論する場も作れれば

若い人が会議に入って自分たちがこうしていくと意見を聞く場を

アウトフットイメージ

市民を巻き込むものに

あまりお金を使わずに皆で知恵を出し合ってやっていけること

京都に関わるすべての人が共汗するようなモノの考え方で、未来の計画を

市民が何ができるのかが考えていく

市民が参加する契機となるインパクトのある政策

キャッチフレーズ的なものも必要

これが市民の義務だということを書けば

目標・指標

ただ回数、達成率が数字的に高いということではなく質まで踏み込むことが、他都市からも憧れられる京都としての理想像につながる

こんな提案をしては

働くものの連携で希望と安心の社会を築く

スポーツを通じて子どもたちが明るく健全に育つまちづくり

市民の動きをエンパワーメントするための仕組み

若い世代を、うまく京都市の活力として生かす

若い方が実際に身を使って働くというシステム

奥深さがあるから新しいこともやっていける環境の都市を

問題提起

市民生活、互いの絆を大事にしなければならぬ中で、個人個人を大事にしすぎ

部会長まとめ

- ① 部会運営については、仮の提案であり、色んなところにぶち抜いてかまわないということを確認
- ② 進め方について、最初から形があるのではなく、議論して出し合いながら発言し合って形を作っていく
- ③ いろんな意味でうらおいという言葉は大事にする
- ④ 色々な項目があるが、人をつなぐという観点で議論ができるのでは
- ⑤ 外から来た人、大学生をどう取り込んでいくのか、とりわけ子どもたちにどう伝えていくのかということがうらおい部会を超える大きな視点になるのでは
- ⑥ マイナス点である地域がばらばら、企業が人を大事にしなくなったといったことを受け止めつつも、暗くなるのではなく、少しでもましになる方法を考える
- ⑦ 言われたからするのではなく、私がするというのをどう伝えていくのかということが大事
- ⑧ 市民一人ひとりが気が付けることを一つの切り口として考えなければならない、市民に積極的に議論を吹っかけていくスタンスもありかもしれない